



知念 富信 議員

上水道管が老朽化、 早急な対策を

答 地権者の了解が得られず難しい

問 兼城相互団地の上水道管は老朽化が進んでいる。取り替えに、地権者の了解が得られないと聞いた。行政で対応できないか。

副町長 平成24年度に水道管の敷設工事計画をしたが地権者の了解が得られなかった。現時点において行政で対応するのは難しいと判断している。

経済建設部長 地権者は16人で12筆、総面積で805坪となる。無償譲渡には難色を示している。

問 火事等の災害に、水道管の動脈硬化で消火栓への水圧減が懸念される。対応はどうするか。

副町長 東部消防組合による老朽化による消火栓水圧減は確認しているという。消防活動に影響はないと聞いている。その他、消防ポンプ車による給放水や近隣の消火栓により対応すると確認した。

問 公道は町道移管が前提である。兼城相互団地内の町道移管に向けて取り組みないか。

副町長 開発行為による道路は通常、開発者から町に帰属され町が管理を行う。同地区は帰属されず個人所有地となっている。町に無償譲渡できないか所有者との交渉を進めていく。

里道の建造物撤去は 法的解決を

問 平成27年9月議会で兼城地内の建造物撤去について取り上げた。しかし未だに撤去されていない。法的な解決を取るべきではないか。

副町長 家族へ口頭による説明や郵送による撤去要請、また撤去要請の文書を2度手渡している。今後進展がない場合は、占用者と話し合い、法的な措置を検討する。

兼城の私道整備を

問 兼城十字路から首里向けの赤嶺産業マンション裏手は、私道のため整備されないうまま放置されている。水溜まり状態で通行に支障をきたしている。町で整備できないか。

副町長 町道285号線から町道11号線に抜ける道路は現況道路として使用されている。建築基準法では住宅敷地となっているので、町で整備する事は困難である。町に譲渡できないか調査を行ったが、無償譲渡には応じていない。引き続き交渉を行う。

経済建設部長 地域の生活道路、通学路の位置づけであれば補修等を検討する。



赤嶺産業マンション裏の私道